

放課後等デイサービス 事業者向け自己評価結果表

事業所名 (特非)発達支援ネットワークつむぎ つむぎ吉備中央

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	改善目標、手立て
						改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3			現状では適切なスペースが確保されています。	今後状況に応じて再構造化はしていきます。
	2	職員の配置数は適切である	3			必要人数が配置されている	利用児の数に応じて今後配置の増員もあります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2		<u>車椅子が通るには狭い場所もある</u>	トイレ入り口がギリギリ入れない状況があります。検討していきたいと思います。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3			携わる業務は職員によって異なっている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	2		継続的改善活動は常に実施しています。要望や意見が上がった際には即座に対応できるようにしています。	自己評価は今回初の取り組みです。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	2			今年度初取り組みとなっています。今回公表させて頂いております。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2		外部評価は行っていません。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3			2カ月に1回研修を行っている	専門性を求められることが多いです。今後も継続して実施していきます。また、実施の状況もお知らせしていきます。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課	3			アセスメントは職員によって技量差がある。	スタッフ責任者がレクチャーを行っています。

		題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している			計画については回覧の形でスタッフに共有し、意見を吸い上げている。	客観的評価の為、人によってばらつきが出ないようにマニュアルも作成し、確認できる形で取り組んでいます。
適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		アセスメントツールは決まっている。	太田ステージ、心の理論、バイラッド、コグトレを使用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3		立案はスタッフ責任者が行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3		繰り返し取り組む活動も必要な場合があるが、興味関心に沿った活動を検討している。	利用児の興味関心にそった活動を引き続き検討していきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3		長期休暇しか取り組めない活動を設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3		療育の軸として個別活動、小集団活動は必ず実施している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		3	重要な事項はスタッフ責任者から確認しているが、毎日行えていない。	現場でその都度必要なコミュニケーションはとれています
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		3	状況の報告・確認等はスタッフ責任者が行っているが、毎日行えていない。	スタッフ責任者が全体を確認しています。責任者より全スタッフへ情報を発信していています。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		記録はとることができている。スタッフが困った際にはスタッフ責任者と検証の話し合いを行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3		6か月をめどに見直しを行っている。要望があれば早めに見直すこともある。	今後も6か月ごとの見直しを徹底していきます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	3		保護者支援や余暇活動等複数支援ができている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		スタッフ責任者が参加している。	今後も引き続き、支援に当たっているスタッフが参加していきます。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	3		利用前に必ずスタッフ責任者より連絡を行っている。変更事は随時保護者から発信してもらうようお願いしているため、随時保護者から発信がある。また、不明な場合はこちらから確認するようにもしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	1	就学後すぐに情報交換の機会を設けるが、その後は保育所等に連絡をとることは少ない。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する		3	該当なし	こういった状況になった場合、必要に応じて実施していきたいです。

		場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している					
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	会議等で連携を図る機会はあるが、助言は受けていない。	統一的な支援の為の情報共有を目的としている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			3	現在はない。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3			参加している。	イベントがある場合、町から案内がありますので、発信をしていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3			送り・お迎えの際に話をする時間を設けている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3			法人で開催しているが事業所からの参加者は少ない。	町で開催するときには是非参加をしてみてください。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3			契約時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3			相談があった際には個別に時間を設けて面談を行っている。	今後も必要と思われるケースに関しては、相談の時間を設定させていただきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3			<u>定期的に開催しているが参加者は少ない。</u>	個別に声かけをしながら、引き続き開催していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者	3			苦情ケースは出ていないが、保護者の要望等は迅速に報告・連絡・相談をスタッ	

		に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している				フ間で行う仕組みを作っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3			通信を週に1回発行している。	今後も内容を工夫しながらつむぎの様子をお伝えしていきます。
	35	個人情報に十分注意している	3			書類管理は鍵つきロッカーに保管をしています。また、建物にはセキュリティーセコム管理をしています。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3			電話はつながりにくい場合もある為、メール活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関われた事業運営を図っている			3	見学はいつでも可能だが、招待したことはない。	開所時に内覧会を行っている。行事等がない為、招く機会はない。ボランティアや実習生の受け入れは要望が出てきたら対応していきたいです。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3			マニュアルは作成している。	保護者にはオープンにはしていませんが、防犯は現在作成中です。感染は汚物処理など部分的にはあります。今後は説明できるよう整備していきたいです。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			3	11月に実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3			法人で研修が行われる。	

41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3			現在該当児がおらず、支援計画には記載していない。	こういった状況が予測されると判断した場合は、保護者の方に説明のもと、該当の方に関しては計画書に記入させていただきます。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3			事前に保護者に確認し、アレルギー食材については提供しない	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3			積極的に活用している。	

(特非) 発達支援ネットワークつむぎ H30. 9.1～